

第52回

北陸・近畿・東海ブロック合同 障害児教育学習会

「ともに学び、
ともに育つ」
地域と学校づくりを
すすめるために



木村泰子さんによる記念講演

7月27日（金）・28日（土）の両日、新潟で第52回北陸・近畿・東海ブロック合同障害児教育学習会が開催され、本県から10人の先生方が参加しました。

全体会では、まず日教組障害児教育部長の佐伯安彦さんから、新学習指導要領の問題点として、インクルーシブ教育へといかにつなげるかという点にふれられていないことや学校間の接続が一方通行であることなどがあげられました。

その後、大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子さんによる「みんながつくる みんなの学校～いつもいっしょがあたりまえ～」という講演が行われました。地域のどんな子どももいっしょに学ぶというあたりまえのことをあたりまえのように実践している大空小のことを映画の映像を交えながら話してくれました。校長としてすべての子どもの学習権を保障すること、安心安全の為に排除しているようでは誰も幸せにならないということ、最後に「しんどい子どもだけを見てその子が安心して学べるようにすることが大切だ」という考えを述べられました。

その後は、4つの分科会で各府県の実践発表及び研究会が行われ、どの分科会も熱心な討論がなされました。

夜の交流会は、他県の参加者と情報交換を行いながらの楽しい会となりました。



第1分科会

＜参加者の感想＞

○インクルーシブ教育という言葉を知らずにインクルーシブ教育を行ってきた木村先生の話聞いてとてもおどろきました。しかし、難しいことを考えずにみんなのことを考えた教育が真のインクルーシブ教育につながったのだと思いました。木村先生のお話を聞いて元気が出ました。

○全体会の講演はとても心温まる講演で心に響く内容でした。日々子どもたちの目線で「いつもいっしょがあたりまえ」の学校づくりを心がけたいです。